

大西明さんを偲んで

原田 融（大阪電気通信大学共通教育機構）

大西明さんの訃報を聞いて、いまだに信じられない気持ちと寂しさが心を満たしています。大西さんとは、彼が1993年春に北大原子核理論研究室に赴任されてからの付き合いだったので、もう30年になります。その頃、私は札幌学院大に勤めており、新たにハイパー核分野で研究を展開したい(実は奈良寧さんの発案だったようですが)という大西さんに誘われ、当時院生だった奈良寧さん、のちに平田雄一さんとともに共同研究を始めていました。その後は、私が大阪電通大に異動したこともあり、共同研究は途切れてしまいましたが、ハイパー核の国際会議や研究会、クォークや中性子星の科研費の集会などで、いろいろな意見交換とたくさんの議論をしてきました。そこには、いつも「活発な」大西さんがいました。1999年に冬のソウルで開催されたワークショップ SNP99 では、宿泊施設の2人部屋で同室になりました。私はオンドルの暖房にあまり寝ることができなかったのですが、朝食の時間になって大西さんを起こそうとして、揺すっても蹴ってもなかなか彼は目を覚ましてくれませんでした。大西さんの昼間の活発さと頭の冴えは、この睡眠の質にあるのかなと感じました。国際会議や研究会では、大西さんがいつも元気に質問して楽しそうに議論する姿がありました(写真1)。大西さんが基研へ異動してからも、私たち北大研究室出身者による行事には必ず顔を出して、議論の花を咲かせてくれました(写真2)。そんな大西さんと仕事の話をするときは、ちょっと警戒も必要でした。興味が多彩で理解が早いので、下手に話してしまうと、先に問題を解かれてしまいかねないからです。

2012年にバルセロナで開催された国際会議 HYP2012 では、エクスカッションで訪れたモンセラットと一緒に散策しました。大西さんは、絵画や芸術を鑑賞する際には「細部までじっくり見たい」と言って鑑賞に時間をかける彼の姿に、それまでの彼の印象とは異なる一面を感じました。また一緒に訪れたサクラダファミリア(写真3)では、内部への入場が2時間待ちという状況に、私は早々に諦めてグエル公園に移動しましたが、彼は並んで待って内部の細部までじっくり鑑賞してきたそうです。ここでも大西さんの物事に取り組む姿勢を垣間見ました。

大西さんは、Femtoscropy や中性子星の物理をはじめとする研究が、これからどんな展開をするのか楽しみしていたに違いありません。いつも活発に議論をふっかけてくる大西さんの姿をもう見るできないと思うと、本当に残念です。大西明さんのご冥福を心からお祈りいたします。



写真 1:大阪電通大で開催した国際ワークショップ SNP2012 にて(2012年8月27日)



写真 2:四条烏丸の居酒屋での「赤石先生古希のお祝い」にて(2012年9月11日)



写真 3: 国際会議 HYP2012 で訪れたバルセロナにて(2012 年 10 月 5 日)